

用語解説

あ行

アスベスト【asbestos】

天然に産する鉱物繊維で「石綿（せきめん）」とも呼ばれる。耐火性、断熱性などにすぐれることから、建築物においては、鉄骨の耐火被覆材や保温材などとして用いられてきた。しかし、これを吸入すると石綿肺、肺がんなどの健康被害が発生することが知られるようになり、労働安全衛生法等により、昭和 50 年から吹付け石綿が原則禁止され、平成 16 年以降は、一部を除いて全面的にアスベスト製品の製造・使用等が禁止されている。したがって、現在建材等に使用されることはないが、アスベストを使用した建物を解体する際は、アスベストが飛散しないような処置が義務付けられている。

エキスパンション・ジョイント【expansion joint】※③

建築物、構造物の接続方法のひとつ。長さが長い建築、橋梁、道路などの温度変化による構造体の膨張または収縮に対し、またはコンクリートの硬化収縮によるひび割れを防止するため、あるいは振動周期の異なる構造物を接続する場合、地震による震動に対し、構造物に生じる応力や変形性状を制御するために行われる接続の方法。

エコマテリアル【Environmental Conscious Materials（環境を意識した材料）】※①

人体への安全性や資源の枯渇に配慮した材料、リサイクルが容易な材料等環境負荷の少ない材料をいう。

エンジニアリング・レポート【Engineering Report(ER)】※⑦

建築物・設備等及び環境に関する専門的知識を有するものが行った不動産の状況に関する調査報告書であり以下の調査報告書によって構成されるレポートである。

- ①建物状況調査報告書
- ②建物環境リスク評価報告書
- ③土壌汚染リスク評価報告書
- ④地震リスク評価報告書

鉛直力【えんちよくりよく】

水平面と直交する方向（重力方向）に働く力のこと。通常、建物の固定加重（自重）、積載荷重、積雪荷重などを示す。

か行

開口部【かいこうぶ】※③

採光、換気、通行、透視などの役目を果たすことを目的とした建物の壁や屋根、床などの切り抜かれた部分。「開口」ともいう。

活動拠点室【かつどうきょてんしつ】※①⑧

災害応急対策活動を行う拠点となる室（災害対策本部の設置場所として定められている室及び総務課（部）、企画課（部）等防災上の調整、復旧体制の立案を行う室等）をいう。

活動支援室【かつどうしえんしつ】※①⑧

活動拠点室の機能を確保するための必要な室（トイレ及び備蓄倉庫等）をいう。

活動上重要な設備室【かつどうじょうじゅうようなせつびしつ】※①⑧

活動拠点室の機能を確保する上で重要な設備室（情報の中核となる電算機、活動上必要な設備機器等を設置する室）をいう。

環境負荷【かんきょうふか】

建物を建設またはこれを使用することによって、環境に加えられる影響のことで、環境の保全上の支障の原因となるおそれのあるものをいう。二酸化炭素の排出、排熱、有害物質の排出などが該当する。

基本計画【きほんけいかく】

建物としての機能や、設計条件を設定するとともに、施設イメージの概念をまとめたもの。この段階で基本構想段階のコンセプトの見直しや追加を行い、運用段階までを視野に入れたコンセプトとして確立する。敷地における配置、基本的なゾーニングと各ブロックの相互関係などが決定される。

基本構想【きほんこうそう】

基本理念を策定し、機能、規模、立地等について決定するもの。事業方法や事業スケジュール、管理運営等についても示す場合がある。

基本設計【きほんせつけい】

建物の設計方針を決定し、仕様、性能、空間構成、意匠計画、構造計画、設備計画などの必要事項を確定し基本設計図に表現する。また、概算工事費を算定し、予算面との整合化を図る。

躯体【くたい】

建築物の、建具、造作、仕上げ、設備などを除いた柱、梁、床などの部分。主として強度を受け持つ。

クリアランス【くりあらんす】

物体と物体のすきま。

建築設備【けんちくせつび】※③

建築物に設ける電気、ガス、給水、排水、換気、暖房、冷房、消火、排煙、汚物処理等の設備、及び煙突、昇降機などをいう。いずれも建築物と一体となって効果を全うするための設

備であり、浄化槽のように建築物の外部にあるものでも、機能的に一体となっているものは建築設備と解される。

建築設備システム【けんちくせつびしすてむ】

設備機器、配管、配線、ダクト等、建築設備全てをいう。

建築非構造部材【けんちくひこうぞうぶざい】

建築物を構成する部材のうち、構造部材を除く、内外装仕上げ材や、設備機器・配管類あるいはそれらを固定する支持金物のこと。

コア【Core】※③

建物の中央部で、共用施設、設備スペース、構造用耐力壁などの集まっている所。

構造部材【こうぞうぶざい】

建築物を構成する部材のうち、柱・梁・ブレースなど、外部の力に抵抗して建物を支持する部材。

さ行

災害対策拠点【さいがいたいさくきよてん】

災害が発生し、又は災害が発生するおそれがある場合に、国または地方自治体に臨時に設置される機関、及びそれが置かれる室のこと。

実施設計【じっしせつけい】

基本設計に基づき、工事発注に備えた建物の詳細にわたる設計図を作成する。実施設計図に基づく積算や、諸手続・申請を含む場合がある。

受水槽【じゅすいそう】※③

給水設備の一つで、高架タンクまたは圧力タンクにポンプで揚水または圧送するために、水道管を導入して受水する水槽。

受変電室【じゅへんでんしつ】

高圧で引き込んだ電気を使いやすい電圧に変圧するための装置や、漏電時の遮断装置などを含み、変圧器を中心に電力の分配・供給をより安全に行なうシステムが置かれた室。

水平力【すいへいりょく】※③

水平方向に作用する力。構造物に作用する地震力、風圧力などで、一般に床面に平行に作用する力をいう。

スラブ【slab】※③

鉛直方向の面加重を受ける板状のもの。一般的には、鉄筋コンクリートの床板を言う。床

として用いられるとき、「床スラブ」という。

制震構造【せいしんこうぞう】※⑤

建築物が地震や風によって揺れ始めたとき、振動エネルギーを吸収し、振動を許容範囲内にコントロールする構造のこと。

た行

耐震構造【たいしんこうぞう】

地震力に対して抵抗できるように設計した構造のこと。免震構造や制震構造のように建物の揺れそのものを軽減させる工法に対して、揺れそのものは軽減させないで地震力に対抗する工法としても理解される。

竪穴区画【たてあなくかく】※③

建築物内部の階段、吹抜け（中略）などのように、建物内部の上下階に連続する空間を火災時の煙または火災の伝搬経路とならないようにし、かつ、避難時の安全避難経路を確保するために用いられる防火区画。（以下略）

建具【たてぐ】※③

建築の開口部を開閉するものの総称。可動の戸と建具枠で構成される。

断熱性能【だんねつせいのう】

熱が移動するのを、どれくらい抑えることができるかを表わす性能。

中央監視室【ちゅうおうかんししつ】※③

建物の設備または防災設備を1か所で監視する遠方監視装置を設けた室。

重複区間【ちょうふくくかん】

建築物が一定の用途や規模以上になると、火災等非常時の避難のために、二方向へ避難することが出来るよう、階段を2か所以上設置することが、建築基準法により義務づけられている。この時、二つの階段が近接して設置されていると、出火場所によっては二方向への避難経路が確保されない恐れがあるため、二つの階段は一定の距離をおいて設置することとなっている。しかし、建物の隅などからの避難では、階段の設置位置に制限があり、同方向への避難が避けられない可能性があり、この時、同方向への避難距離を「重複区間」として、ある程度の緩和措置が認められている。

な行

日射遮蔽性【にっしゃしゃへいせい】

太陽からの日差し、放射エネルギーを、遮る効率のこと。

熱源機械室【ねつげんきかいしつ】

冷暖房設備や給湯設備などの熱源となるエネルギーの発生装置が、置かれてある室。

延べ床面積【のべゆかめんせき】※③

建築基準法上の「延べ面積」のこと。建築物の各階の床面積を合計したもの。

は行

バリアフリー【barrier free】※④

高齢者・障害者等が社会生活をしていく上での物理的、社会的、制度的、心理的及び情報面での障害を除去するという考え方。例えば、公共交通機関のバリアフリー化とは、高齢者・障害者等が公共交通機関を円滑に利用できるようにすること。

庇【ひさし】※③

窓や出入り口、あるいはテラス、ポーチなどの上部に設けた片流れの屋根状のもの。

避雷器【ひらいき】

発電、変電、送電、配電系統の電力機器や通信回線、通信機器などを、雷などにより生じる異常高電圧などから保護する機器。

ピロティ【pilotis】※③

建物を支持する独立柱が並ぶ吹放ちの空間。

複層ガラス【ふくそうがらす】

2枚のガラスの間に中空層を持たせたガラス製品で、断熱性能を高めたもの。

フリーアクセスフロア【free access floor】

床の上に電力・通信等の配線スペースを確保し、その上に別の床材を設ける二重構造の床。OAフロアともいう。

ブレース【brace】※③

四辺形に組まれた軸組に対角線に入れた補剛材。「筋交い」とも言う。

防火区画【ぼうかくかく】※③

火災時に延焼の拡大を防ぎ、火災を局部的なものに抑えると共に、避難を容易にするため一定面積以内ごと（中略）に防火区画をすることが要求され、また、区画は、耐火構造の床、壁、または防火戸でなければならないとされている。

防火設備※③

建築物を火災から防ぐための一切の設備の総称。

ボーリング【Boring】※③

適度な掘削機械と器具を用いて地盤に径 60～300mm 低度の深い穴を掘ること。主として地盤及び土質調査の目的で行われる。

ま行

免震構造【めんしんこうぞう】※⑤

建築物の固有周期を長くして地震の揺れの周期と建物の揺れの周期を設計時点ですらすることによって、地盤から建物に入る地震力を 1/3～1/5 に低減させる構造のこと。

面積区画【めんせきくかく】※③

建築基準法に規定される所定の床面積ごとに設置することが義務づけられている防火区画のうち、同一階内を 2 以上に分割するように設けられた防火区画をいう。

や行

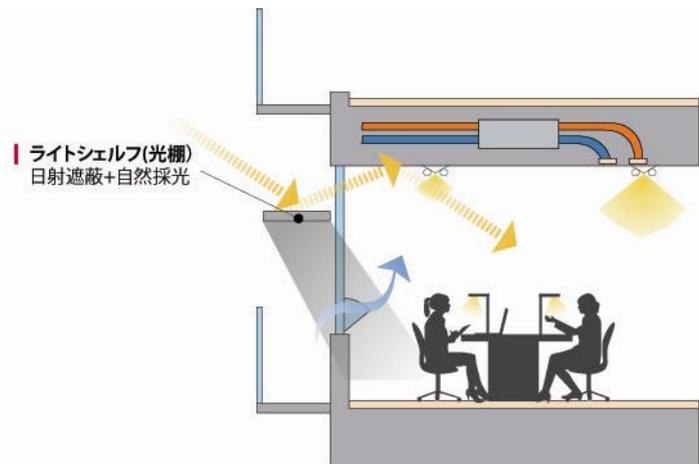
ユニバーサルデザイン【Universal Design、UD】※①

障害の有無、年齢、性別、言語等にかかわらず多様な人々が利用しやすいように施設や生活環境をデザインすることをいう。

ら行

ライトシェルフ【light shelf】

シェルフとは'棚'の意で光の棚。比較的高い位置にある窓から入射する日射しを棚の上と天井に次々と反射させて、部屋の奥まで光を到達させる装置のこと。



ライフライン【life line】※②

生活線。電気、ガス、水道などをいう。

わ行

割引率【わりびきりつ】※⑥

将来のある時点での金額を、現在の価値に割り戻すために用いる率のこと。

アルファベット

BEMS 【Building and Energy Management System】

電力負荷の低減や平準化を目指した建物全体でのエネルギーを、コントロールするシステム

DS 【Duct Space】

Duct Space の略。空調設備等のダクト配置スペース。

EPS 【Electric Pipe Space (Shaft)】

Electric Pipe Space (Shaft) の略。電気設備用配管・配線スペース。

EV 【Elevator】

エレベーター。垂直昇降機。

I s 値 【Seismic Index of Structure】 ※⑤

「構造耐震指標」とのこと。耐震診断によってこの値を求め、建物の耐震性能を評価する。

Low-e ガラス 【Low Emissivity glass】

板ガラスの表面に酸化スズや銀などの特殊金属膜をコーティングしたもので、この膜が遠赤外線の反射率を高めている。このため、Low-E ガラスを複層にすることで、中空層の放射による熱伝達を低減し、高断熱性能を実現させる。

PS 【Pipe Space (Shaft)】

空調・給排水設備等の配管スペースのこと。

RC造 【Reinforced Concrete】 ※⑤

鉄筋コンクリート造のこと。引っ張り強度が小さいコンクリートを引っ張り強度の高い鉄筋で補強したコンクリート構造のことをいう。

SRC造 【Steel Reinforced Concrete】 ※③

鉄骨鉄筋コンクリート造のこと。鉄骨と鉄筋コンクリートの複合構造のことをいう。

S造 【Steel】

鉄骨造のこと。

- ※①「官庁施設の基本的性能基準」より
- ※②「現代用語の基礎知識 カタカナ・外来語／略語辞典 第4版」より
- ※③「建築大辞典」より
- ※④国土交通省用語集より
- ※⑤「建築構造を学ぶ事典」より
- ※⑥「日本版PFI」より
- ※⑦「エンジニアリング・レポート作成に係るガイドライン」より
- ※⑧「業務継続のための官庁施設の機能確保に関する指針」より